

# 第2回SIP包摂的コミュニティプラットフォームシンポジウム 福祉×金融で支える認知症社会

---

## 金融包摂モデル事業について

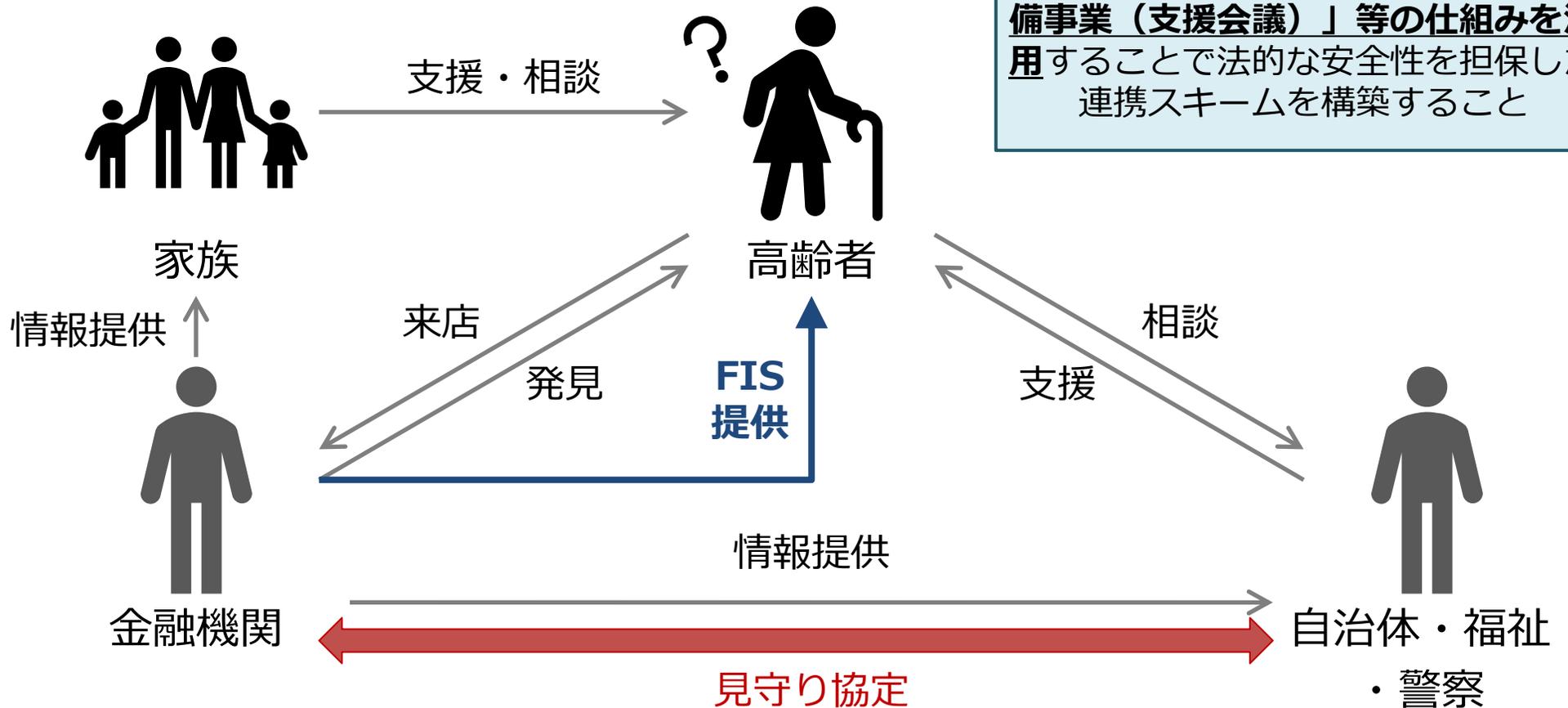
－重層的支援体制整備事業（支援会議）の活用と展望

2025年 1月 29日

---

慶應義塾大学 経済学部附属経済研究所  
ファイナンシャル・ジェロントロジー研究センター  
尾川 宏豪

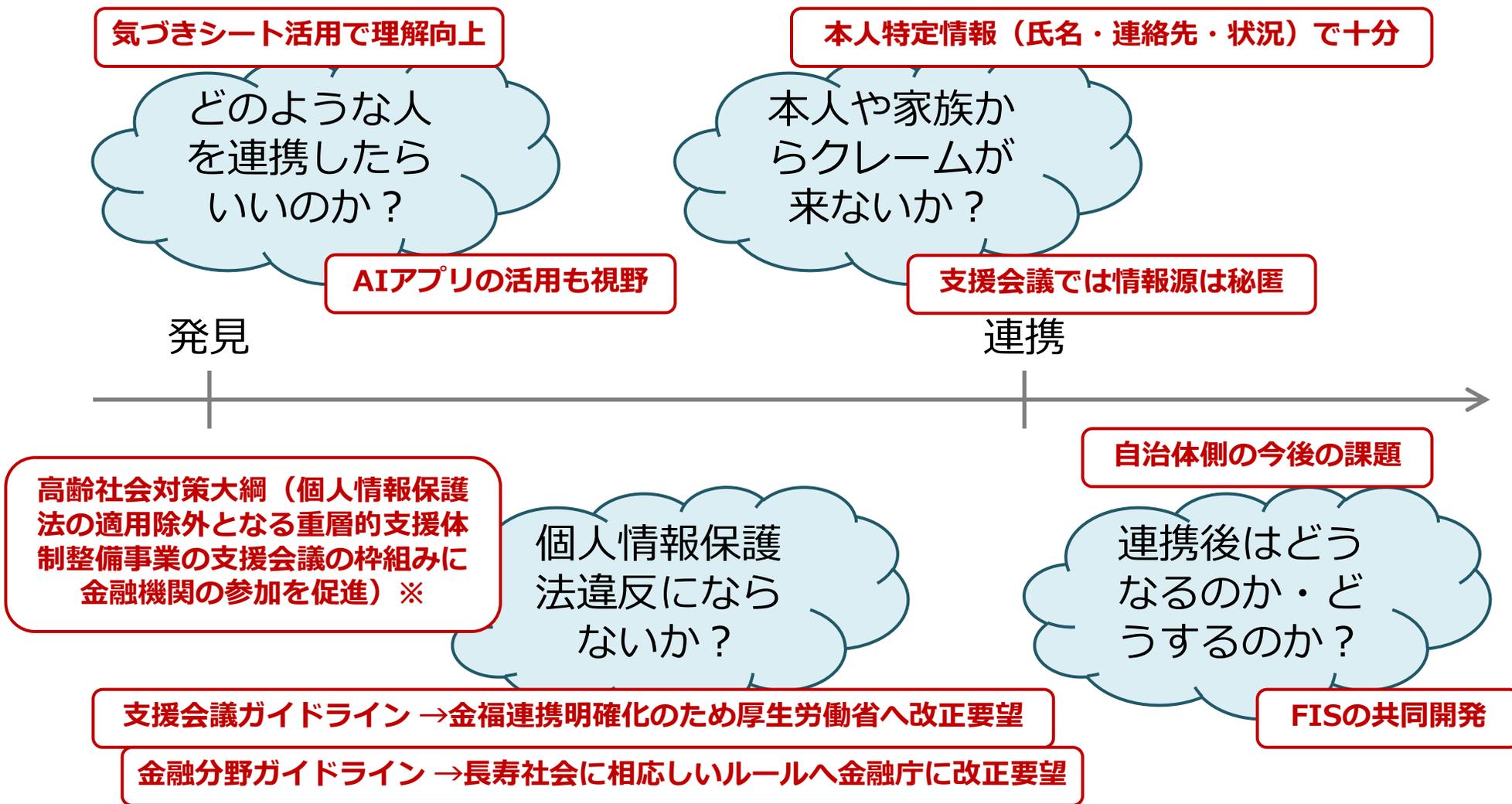
# モデル事業の目指す姿とゴール 福祉×金融の目指す姿



**金融機関職員が認知機能低下が疑われる高齢顧客を発見し、自治体・福祉関係機関に対して顧客情報を提供するに際し、社会福祉法「重層的支援体制整備事業（支援会議）」等の仕組みを活用することで法的な安全性を担保した連携スキームを構築すること**

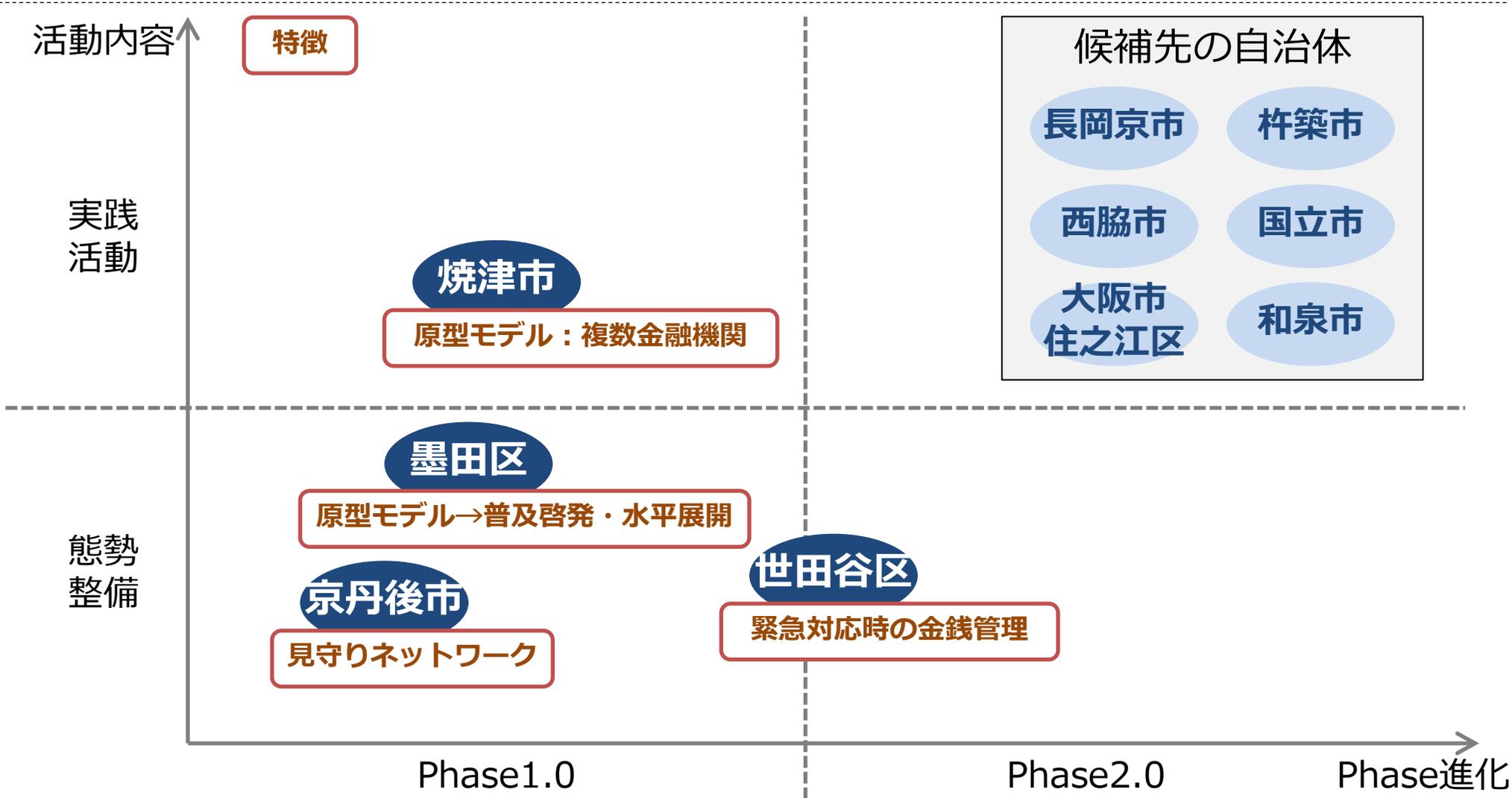
社会包摂のための新たな金融サービス（FIS=Financial Inclusive Service）を共同開発

# 発見・連携における検討課題 金融機関のもやもやにどう応えるのか

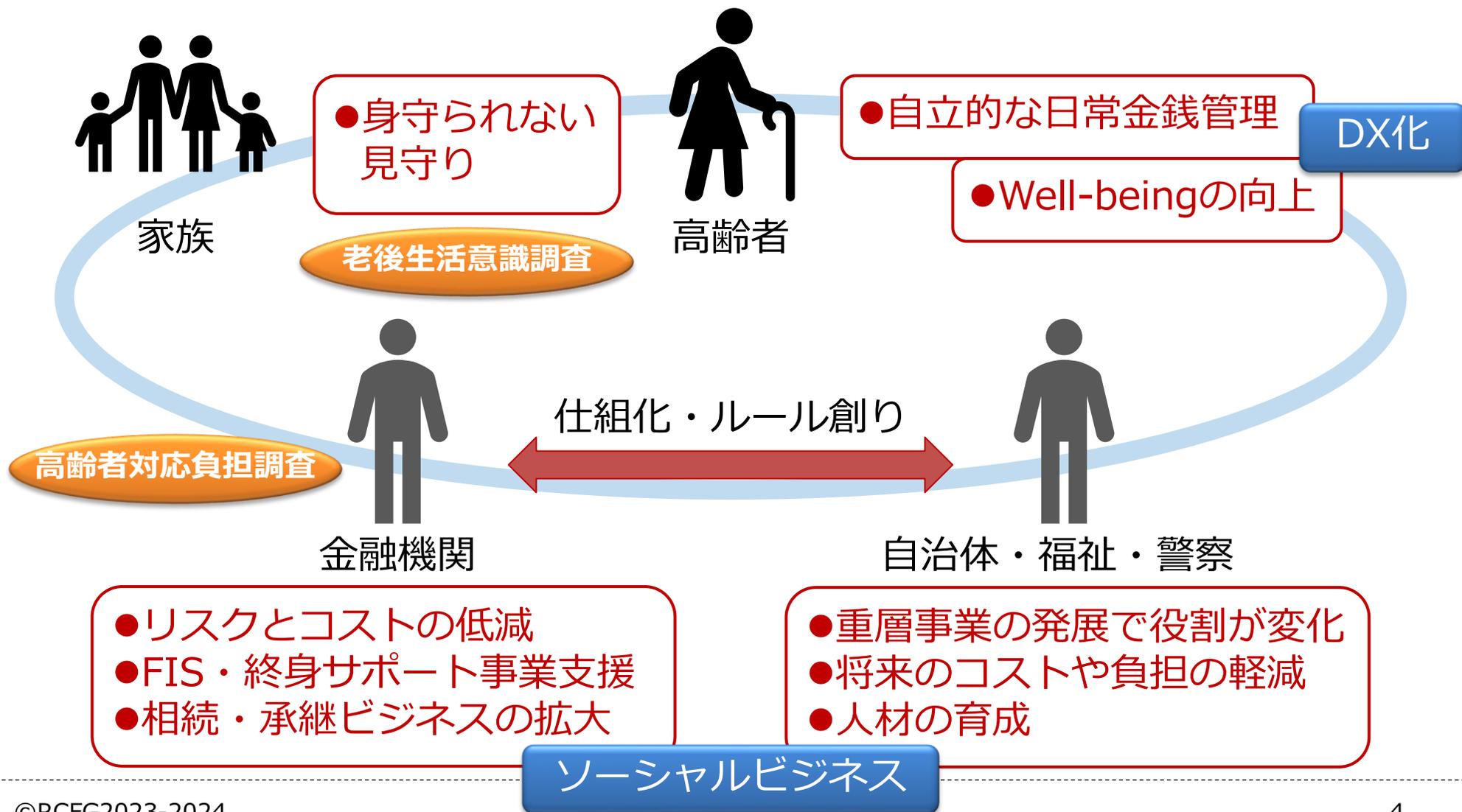


# モデル事業の進捗状況

問題意識によって様々なバリエーションが存在



# 連携による福祉と金融の想定されるメリット 仕組化とルール創りによる社会問題の解決



# モデル事業の今後の最重要課題 意識を変えるためのルール創り

## 意識

認知機能の低下を認めたくない  
→自ら相談する・支援を求める

金融機関の発見と連携が消極的  
→自治体・包括に積極的に連携

認知症が自分事になっていない  
→認知機能低下でも困らない街

## ルール

**高齢者ステータスの向上**

**連携後のフィードバック**

**認知症あんしん宣言**